

令和8年2月27日(金) デーリー東北

デーリー東北主催 第11回「コラムに挑戦『私の天鐘』」

- 最優秀賞(高校生の部) -

「心の支えになる言葉」大向亜実(1年)



私の天鐘

私は落ち込みやすい性格だ。今まで何度も気持ちがあがり、そのたびに立ち上がるまで時間がかかる。一度考え始めると、不安なことばかりが頭に浮かび、自分を責めてしまうことも多い。そんな私にとつて、言葉は心を支えてくれる大切な存在だ▼落ち込んだ時や、つらい時は誰かの言葉を思い出す。ある野球選手の「その人に直接言えない悪口は言わない」という言葉は、感情的になりそうな自分を落ち着かせてくれた▼また、あるアイドルの「つらくなったら逃げていい」という言葉は、無理をしなくてもいいのだと思わせてくれ、心の力を少し抜いてくれた▼中でも一番心に残っているのは、小学生の頃、卒業アルバムに書いてあった校長先生の言葉。「誰かに優しくしても、いじわるしても、全部自分に返ってくる。だったら優しい人になりたいな」という問いかけは、今でも忘れられない▼つらくて家族に当たってしまいたいような時や、誰かにイラついて優しさを忘れそうになる時、私はこの言葉を思い出す。完璧にはできなくても、一度立ち止まって自分の行動を考え直すきっかけになっている▼正直、私はまだ本当の優しさが何なのか分かっていない。優しくできない自分に落ち込むこともある。けれど、言葉に支えられながら、少しずつでも自分なりの優しさを見つけていきたい。まだ答えは出ていないけれど、考え続けていきたい。

- 優秀賞(高校生の部) -

「大切な時間」富樫羽妙さん(3年)

自分自身と向き合う、私のかげがえのない時間。高校三年間私の弓道の歩みは決して順風満帆ではありませんでした▼先輩方のようにすぐ的中が出ると信じていた現実は一瞬、基本作法や弓の重さ、定まらないフォームに苦しみ、毎日が弓との戦いでした。周囲が上達する中で取り残される焦燥感に駆られ、練習に行くのが辛い時期もありました。的を外すたびに自分の不甲斐なさに落ち込んだ記憶は、紛れもなく青春の一部です▼しかし、そんな停滞期があったからこそ、本当に大切なことに気づけました▼共に練習した仲間、最後まで見放さなかった方々の存在です。基本に立ち返り、雑念を捨て無心で矢を放つことだけを考えて時、ようやく心と体が繋がった気がしました。あの苦悩の中で葛藤し、振り絞るように放った一本の矢こそが何ものにも代えがたい私の努力の証です▼高校弓道は一つの区切りを迎えますが、私の挑戦は終わりません。容易に手に入らない「的中」だからこそ、時間をかけて追いかける価値がある。そう確信し、大学でも弓を続けると決意できたのは、この順調ではなかった三年間があったからです▼私はこの春からの大学の弓道でも、新たな壁にぶつかるとしよう。それでも自分を信じて真っ直ぐに射続け、いつか自信をもって正射必中を体現できるその日まで、私の挑戦は続きます。